

妥当性
 ・自己評価は妥当である……○
 ・自己評価は妥当とはいえない……△

王寺南 義務教育 学校	中項目	評価指標	自己評価	教員アンケートの肯定的割合	改善策・次年度の目標等	学校関係者評価	
						妥当性	ご意見など
教育活動	よく分かる授業づくり	・児童生徒の学習意欲を高める指導に努めている	B	98%	保護者アンケートでは学力向上について学校の取組に対して肯定的に回答した割合は82%、落ち着いて学習できる雰囲気であると回答した割合は79%、児童生徒アンケートでは学力が向上したと回答した割合は87%であり、教員アンケートの肯定的な回答の割合に比べるとそれぞれ低い。今後も引き続きよく分かる授業づくりに努め、児童生徒の学習意欲や学力の向上を目指すことが大切である。 今年度は、第5、6学年児童への算数、理科、外国語の専科指導をはじめ、教員の専門性を生かした指導の充実に努めた。教員の指導力の向上のため授業研究を定期的実施し、今年度は道徳科の指導を通して児童生徒の考えたいという意欲や話し合い活動の充実を目指した授業の在り方などについて前期後期の課程を超えて教員が学び合ってきた。 今後、全国学力・学習状況調査結果等に見られる本校児童生徒の課題に対応した取組を、義務教育学校全体で進めるような体制整備に今後一層努めたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	前期課程の専科指導については、実施教科をもっと増やす方向で取り組む方がよいのではないかと。(さらに国語科、社会科でも実施するなど)
		・児童生徒にわかりやすい授業を実施している	B	100%	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○		
	学校生活の充実	・児童生徒が充実した学校生活を送っている	A	98%	児童生徒アンケートでは充実した学校生活を送っていると肯定的に回答した割合は89%であった。また、保護者アンケートでは児童生徒が充実した学校生活を送っていると肯定的に回答した割合は90%、様々な活動によく取り組んでいると回答した割合は86%であり、ほぼ目標を達成できたと考える。 学舎ごとの特長を生かした教育を進める中で、太子学舎では第4学年児童のリーダーシップを高めることを目指した取組を、畠田学舎では児童生徒会を中心とした第5～9学年全体で行う取組を学校全体で進めてきている。こうした取組の中で、生き生きと活動する児童生徒の姿が多く見られる。また、畠田学舎の第5、6学年では後期課程と合わせた各学級単位の取組を進めることが、活気や一体感ある学級経営につながっている。 今後は、両学舎の児童生徒をつないだ取組の充実を図り、学校生活の活性化を義務教育学校全体で進めたいと考える。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし
		・ユニバーサルデザインを意識し、児童生徒が心地よく過ごせる学級・学年の雰囲気をつくるよう努めている	A	92%	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし	

<p>人権が大切にされる雰囲気づくり</p>	<p>・人権教育の重要性を認識し、児童生徒一人一人を大切に教育を行っている</p>	<p>B</p>	<p>98%</p>	<p>児童生徒アンケートでは、いじめを許さず人とのつながりを大切にしていると肯定的に回答した割合は95%であったものの、学校に安心して過ごせる雰囲気があると回答した割合は86%であった。1割程度の児童生徒が否定的に回答していることは今後取り組むべき大きな課題である。また保護者アンケートでは、学校が児童・生徒間の人間関係を大切に、いじめを許さない教育をしていると肯定的に回答した割合は84%であった。今後、一層人権が守られ、大切にされる学校づくりを進める必要があると考える。 今年度特に重視した取組では、各学級、学年で課題となっていることや配慮の必要な児童生徒については、職員会議の際に報告し合う時間を必ず設け、情報共有している。 今後は、学舎ごとの課題や情報共有を定期的に行うなど、義務教育学校全体で人権教育を推進し、児童生徒や教職員が共に人権感覚を磨き高め合う気風の醸成に一層努めたい。</p>	<p>○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○</p>	<p>児童生徒の表情、行動の変化を見逃さない取組や教職員の横の連携の強化をこれからも続けてほしい。</p>
<p>進路指導の充実</p>	<p>・児童生徒に将来の夢や生き方、進路について考える指導を行っている</p>	<p>B</p>	<p>100%</p>	<p>進路指導に関して、教員アンケートによる肯定的な割合と比べ、保護者アンケートでは同じ質問へ肯定的に回答した割合は59%であった。今後一層、進路に関する情報発信や懇談等の内容充実などに努める必要がある。 今年度は、学級活動や道徳科を通して行う指導のほか、第9学年では生徒や保護者との定期的な面談以外にも必要に応じて相談や面談を行うなど、指導の充実に努めてきた。また、進路指導部では情報を共有し学年全体での指導を徹底している。 来年度に向け、進路指導につながる学力向上のための指導計画の見直しや具体的な取組の共有化を、畠田学舎を初め学校全体で進める必要がある。</p>	<p>○ 学校関係者評価委員 7名のうち 6名…○ 1名…△</p>	<p>教員と保護者の肯定的回答の乖離については、保護者の希望と実際の指導とにズレが生じるためであると想像できる。塾等での指導の影響もあり、学校現場で苦慮することも多いと思われる。生徒や保護者への資料や情報提供の充実に努め、生徒の将来を保護者と共に見据え共通理解を図るよう不断の努力が必要である。</p>
<p>学校の組織運営</p>	<p>・職員が目標を共有し、協力して学校運営を行う体制づくりができていく。</p>	<p>B</p>	<p>91%</p>	<p>保護者アンケートによると学校の環境美化や施設整備、学習環境整備に関して肯定的に回答した割合は75%であり、学校運営に関してハード面での一層の充実に努める必要がある。 今年度は、学校運営委員会や主任者会を定期的開催し、教育目標の共有や取組の方向性等の確認を各部や学年のリーダー間で行い、職員会議等で全体での共通理解の下、学校運営を行ってきた。また、学舎間の連携のために、管理職が学舎を歩き来し情報共有と伝達を行うほか、学校通信「王南通信」で両学舎の取組を毎週、全教職員に周知し、情報の共有を図っている。 来年度は、両学舎の主任等が集まって行う会議を定期的開催し、取組の成果や課題の共有を一層密にし、義務教育学校としての学校運営の充実に努めたい。</p>	<p>○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○</p>	<p>管理職も含め教職員の縦・横のつながりの構築に今後も努めることが大切である。</p>

学校経営	学校教育の理解促進	・児童生徒や保護者、地域住民、教職員等が、学校が進める教育について理解を深めることができるよう情報発信に努めている	A	100%	保護者アンケートでは、学校の様子を分かりやすく伝えていると肯定的に回答した割合は88%であり、ほぼ目標は達成できたと考える。 学校通信「王南通信」では、左側に太子学舎、右側に畠田学舎の取組を掲載して毎週発行し、学校の教育活動への理解を深めていただけるようにしている。特に、施設分離型の義務教育学校であるために9年間を通した営みの見えにくさを通信で補ってきた。 今後も引き続き情報発信の充実に努めたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	非常によく努力されている。 感染症の影響で地域の方が学校を知る機会が減っている。地域の人が学校を知る機会の充実に努めてほしい。
	教職員の働き方改革	・校務支援システムを活用し、業務軽減を図っている	B	58%	校務支援システムとともにICT機器を活用し、一定の業務軽減が進んでいる。一方で、教員アンケートの結果から、ハード面の整備に対してソフト面での効果的活用が追いついていないことが窺える。今後活用が進むにつれ改善されていくと考えるが、県域で情報伝達するシステムでは県における調整を待つ必要もあり、状況に応じて活用が進むよう校内での情報共有が重要である。 今後も業務の効率的な執行につなげるよう、一層の活用を図っていききたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	割り切って退勤できる職ではないことは理解できる。定時退勤日などのさらなる活用を。
・業務に効率的に取り組み、定時退勤日を含め週1回以上は定時に退勤している		C	55%	定時退勤に関しては、特に畠田学舎で超過勤務の解消に一層努める必要がある。特に、後期課程教員が部活動の指導のため、業務が長時間化している実態がある。定時退勤日を設けてはいるものの、定時に退勤できない教員が複数名いる。 部活動指導の在り方については、今後、町教委とも連携し、社会教育への移行を含め、改善方策等を探っていく必要がある。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	先生方にとって負担が大きいが、生徒にとって協調性やチームワークなどを学ぶ重要な活動である。先生方の負担軽減を図りながら部活動を存続させる方策を見つけてほしい。 部活動については専門の指導者の導入をさらに進めるべき。	

義務教育学校の特色に関する評価表

王寺南義務教育学校	中項目	評価指標	自己評価	教員アンケートの肯定的割合	改善策・次年度の目標等	学校関係者評価	
						妥当性	ご意見など
英語教育の推進	・ALTを活用した英語教育に取り組んでいる	A	98%	概ね9割の児童生徒がアンケートで英語教育が大切だと肯定的に回答しており、保護者アンケートで学校が英語教育の推進に取り組んでいると肯定的に回答した割合は78%であったことから、学校が進める英語教育に対する児童生徒の受け止めは満足できるものであるといえ、保護者の理解も得られていると考える。 今後も児童生徒が積極的に取り組む授業づくりや英検受検の推進に努めたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし	
	・英語教育への肯定的な回答が85%以上である	A	児童生徒 88%				
	・9年生で英検3級以上取得した生徒が50%以上である	C	該当生徒 33%				

「和」プロジェクトの推進	・王寺町を知る・考える・関わる取組を系統的に行っている	B	76%	概ね9割の児童生徒がアンケートで王寺町について様々なことを知り考えることができたことと肯定的に回答しており、概ね目標は達成できたと考えている。 副読本を活用した学習以外にも、町たんけんや史跡探訪など、地域を題材にした学習を実施した。また、王寺町の道徳教育郷土資料をワークシートとともにメディアセンターに配置し、児童生徒が自由に読んで考えをワークシートに考えをまとめることができるようにしている。今後は道徳授業での活用を図るなど、さらに王寺町について自分との関わりで考える学習を進めたいと考える。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	「王伸」なども活用できるのでは。
プログラミング教育	・ICTを活用した授業を実施している	A	96%	児童生徒アンケートでICTを活用した授業は分かりやすいと肯定的に回答した割合は91%、プログラミングの授業は楽しいと回答した割合は91%、保護者アンケートでICTを活用した分かりやすい授業が行われていると肯定的に回答した割合は74%であり、概ね目標を達成できたと考える。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 6名…○ 1名…無回答	もっとタブレットを使ってほしい。
AIを活用した個別最適化学習	・ラインズドリルやスタディ・ログのAIによる分析を活用して、一人一人に適した学習を実施している	B	50%	教員がラインズドリルやAIによる分析等の有効な活用について、研修しながら取組を進めてきている。今後も、校内研修を実施したり情報交換したりするなど、一層の活用に努めたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	基礎学力の定着は学校教育の使命。一層の研鑽を。
読解力の向上	・自ら課題を設定し、問題解決に必要な情報を様々な方法で収集・選択・比較・分類して自分の考えを表現し深めていくことができている	B	—	79%の児童生徒が、アンケートでいろいろな学習をして自分の考えをまとめ発表できたことと肯定的に回答しており、メディアセンターを効果的に活用していると肯定的に回答した教員の割合が89%であったことから、総合的な学習の時間などで自らの課題に対して必要な情報を収集・選択し、自分の考えをまとめて発表する学習が効果的に行われていたと考えている。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし
メディアセンターを活用した探究学習	・ICTや図書などの様々な資料を組み合わせ、自ら課題を見つけ解決する学習を進めることができている	B	87%	84%の児童生徒が、アンケートでメディアセンターやタブレットを使って自分にあつた学習ができたことと肯定的に回答し、教員の89%がメディアセンターを効果的に活用していると肯定的に回答しており、概ね目標は達成できていると考える。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし
	・タブレットを活用したグループ学習を実施している	B	83%	今後は、児童生徒が自ら課題をもって探究、課題解決する学習過程をさらに工夫し、メディアセンターやクロームブックの効果的な活用を一層図る必要がある。		

の活動	デジタル教科書の活用	・教師用デジタル教科書を活用した授業を実施している	A	91%	黒板付設のプロジェクトが新規設置され、教師用デジタル教科書については教科を問わずほとんどの授業で活用している。児童生徒用デジタル教科書については、活用が効果的である単元や内容を選んで活用しているが、今年度の指導を生かし、次年度にさらに効果的な活用ができるよう、指導計画の見直しを図る必要がある。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	児童生徒がどの程度使いこなせているのか想像できない。効果的な活用を進めてほしい。
		・児童・生徒用デジタル教科書を活用した授業を実施している（英語、算数・数学）	B	53%			
個別指導の充実		・定期的に授業の振り返りを行い、個に応じた指導を実施している	B	85%	第5、6学年の専科授業では、学級担任とのT・Tを適宜実施し、個に応じた指導や発展的な学習の充実に努めている。今後は、各学年や教科単位で指導を振り返る機会を設定したり、授業研究を実施して効果的な指導の在り方を探ったりするなど、一層の授業改善を進めていきたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし
		・各教科等において発展的な学習を実施している	A	93%			
異学年交流で心の教育		・異学年による合同授業を実施している	A	95%	教員アンケートでは、上学年が下学年のお手本となるような取組を実施していると肯定的に回答した割合は98%、委員会や児童生徒会の活性化に向け取り組んでいると回答した割合は96%であった。 一方、児童生徒アンケートでは、他学年の人と一緒に活動することが楽しいと肯定的に回答した割合が85%、日々の生活の中で上級生から学ぶことがあると回答した割合が81%、下級生の手本となるように意識していると回答した割合が84%、交流清掃で協力して活動していると回答した割合が90%であった。また、保護者アンケートでは、行事等で異学年との交流が活発に行われていると肯定的に回答した割合は78%であり、これらは異学年交流の充実に努めてきた成果であると考え。 今年度は、各学舎ごとに異学年交流の充実を図っている。太子学舎では異学年での集会活動、畠田学舎では異学年で一緒に行う清掃、児童生徒会を中心に全学年で活動する体育大会や文化発表会をはじめ、異学年で活動する機会の充実に努めた。 それぞれの学舎との交流を楽しみにしていると肯定的に回答した児童生徒が82%であったことから、次年度は学舎を超えて交流する機会を充実させるよう、計画の検討を進めたい。なお、異学年による合同給食は今年度は取り組むことができなかったが、来年度以降に実施を検討したい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	非常によく努力されている。 異学年での合同給食は、次年度以降、可能になるよう期待している。
		・異学年による合同給食を実施している	C	—			
		・たて割りの活動を実施している	B	—			
		・児童生徒会による活動を実施している	A	—			
豊かな人間性と社会性の育成		・地域の方々やボランティアの方々と交流している（会食、昔の遊び交流会等）	B	84%	保護者アンケートで、学校が家庭や地域と連携しながら教育を進めていると肯定的に回答した割合は86%であり、概ね目標は達成できたと考える。 太子学舎では地域の読み聞かせボランティアの方々による定期的なお話会、第1学年の昔遊びや王南プラザ、第4学年のかまどパンチ作りなど、畠田学舎では第6学年の町の史跡等見学、家庭科の指導ボランティアなど、地域の方々との交流の機会を設定している。今後も、感染状況を踏まえつつさらに活動の機会や内容の充実を図っていきたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし

	5年生からの部活動	・5年生から部活動を実施している	A	100%	部活動体験を計画し、畠田学舎の全教員の協力の下で実施している。今後は、後期課程の部活動の在り方を見直す必要がある。町教委と連携し、部活動の社会教育への移行を進めることで、後期課程教員の日常的な超過勤務の解消や、前期課程教員の部活動指導への参画など、全教員が義務教育学校教員として協力的に指導を進める基盤整備を行う必要があると考える。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 6名…○ 1名…無回答	これからも積極的に進めてほしい。 後期課程に向けての体験だと思っていたので、いろいろな部活動の様子を見ることができると感じていた。
	4-3-2制の取組	・4-3-2制の学年区切りを生かした取組を展開している	B	74%	第1～4学年の学年区切りが学舎として成立する分離型であることをメリットとして、第4学年児童がリーダーとして様々な学校行事に参画する取組を計画、実行している。4学年末には区切りの式を計画している。第5～7学年の区切りを生かす取組として、7学年末か8学年当初に区切りの式を計画している。 今後、第7学年がリーダーシップを発揮できる取組を充実させたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし
	9年間の系統的なカリキュラムの作成・実施	・各教科等で作成した9年間のカリキュラムに基づき授業を進めることができる	B	87%	特に後期課程教員が第6学年の指導している算数・数学科において、9年間を見通した効果的な指導計画づくりを進めるほか、他の教科等にもこうした取組を広げていく方策を検討していきたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし
	相互乗り入れ授業による学力の向上	・校種それぞれが互いに交流し合い良さを生かした指導ができています	B	59%	太子学舎の授業研究を畠田学舎の後期課程教員が参観したり、畠田学舎の校内授業研究で、前期課程の道徳、体育授業を後期課程教員が参観、研究協議を行ったりするなど、主に後期課程教員が前期課程の特長を学ぶ機会をつくってきている。 今後は後期課程の授業を前期課程教員が参観する機会を工夫するなど、校種間の特長を学び合い、義務教育学校全体で指導の充実を進めたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	施設分離型で移動等にも問題があるので焦らずに。 逆に分離型ならではの特色やよさを見い出してほしい。
		・一部教科担任制を実施し、アンケートで肯定的な回答が85%以上である	B	好きと回答した割合 算数 57% 理科 86% 外国語76%			
全教職員が つながる指導	生徒指導の充実	・9年間を見通した指導計画を立案し、学習規律等について共通した指導体制を確立している	B	76%	児童生徒アンケートでは、学校のきまりや社会のルールを守って生活していると肯定的に回答した割合が85%、保護者アンケートでは、子どもたちが学校きまりや社会のルールを守って生活していると肯定的に回答した割合は96%であった。学校の生徒指導の取組が一定の成果をあげ、保護者の理解も得ているものと考えている。 しかし、現在も生徒指導に関わって継続して取り組むべき様々な課題があり、今後も学校全体で情報共有しながら一体的に取組を進める必要がある。教育委員会との連携をしっかりと図り、生徒指導の充実に一層努めていきたい。	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	様々な問題は起こるものと捉えて、早期発見、早期解決に努めてほしい。
		・子どもたちの情報を共有し、全体で一貫した指導を行うことができる	A	96%			

教育相談の充実	・子どもたちに対する心のアンケートを年間計画に位置付け実施している	A	—	<p>児童生徒アンケートでは、自分の悩みや話を聞いてくれる友達や先生がいると肯定的に回答した割合が90%、保護者アンケートでは、先生と児童・生徒の間に信頼関係があり、悩みや相談に丁寧に対応していると肯定的に回答した割合は82%であった。学校の教育相談に関わる取組が一定の成果をあげ、保護者の理解も得ているものと考えられる。</p> <p>今年度は、県教委派遣のSCにお願いして町費でも勤務いただくことで、両学舎共に月1、2回程度の教育相談を実施できた。昨年度から引き続きカウンセリングを行っている児童生徒や保護者の対応も含め、充実した相談体制をつくることできた。しかし、不登校など対応が必要なケースは発達段階が進むにつれ増加傾向にある。</p> <p>次年度以降も同様の教育相談体制を維持するとともに、さらに充実を図るよう教育委員会とも一層連携していきたい。</p>	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 6名…○ 1名…無回答	教職員と児童生徒、保護者の信頼関係づくりを今後も進めてほしい。
	・教育相談の機会を計画的に実施し、課題のある子どもの対応をSC、SSW等と連携し対応している	A	97%			
特別支援教育の充実	・通級による指導を拡充し、自立活動を中心とした教育を進めている	B	90%	<p>これまでペガサス教室に通っていた児童の指導を引き継いで実施するほか、今年度に新たに通級指導を希望し、年度途中から指導を実施した児童生徒が6名、来年度から通級指導を希望している児童生徒も複数いるなど、ニーズに対応した指導を行うことができた。</p> <p>今後もさらにニーズが増えることが予想され、学級担任との連携や保護者との面談の体制の充実など、さらに指導体制を工夫し対応する必要がある。</p>	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	
	・個別の支援計画・指導計画を教職員で共有し、それに基づいた教育を進めている	B	84%			
地域人材の活用	・地域ボランティアやPTA等と連携した授業を実施している	B	79%	<p>保護者アンケートで、学校が家庭や地域と連携しながら教育を進めていると肯定的に回答した割合は86%であった。</p> <p>今年度は、1年生の生活科で昔遊びを地域の高齢者に教わったり、6年生で町の観光ボランティアの方々による史跡探訪や講義、ボランティアによる家庭科の指導補助などを実施したりするなど、外部人材の活用を図った。PTAとの連携による観劇会や運動会、体育大会の実施などについても円滑に進めることができた。</p> <p>今後もさらに外部人材の活用、連携を進めたい。</p>	○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○	特になし
	・外部人材を講師とする学習を実施している	A	87%			

地域こじじい にある学校	「あいさつ+1」運動の推進	・委員会活動等で計画的にあいさつ運動を行っている	B	84%	<p>児童生徒アンケートで、自分から挨拶をするように心がけていると肯定的に回答した割合が89%、保護者アンケートで、子どもたちはよく挨拶をしていると肯定的に回答した割合は84%であった。学校の取組が一定の成果をあげていると考える。</p> <p>太子学舎では地域の道徳教材をメディアセンターに常設掲示するなどして活用し、あいさつの大切さを自覚できるよう取り組んだ。畠田学舎では児童生徒会が中心となってあいさつ運動を実施した。</p> <p>今後も管理職が率先して児童生徒を朝に出迎えることをはじめ、取組を継続していきたい。</p>	<p>○ 学校関係者評価委員 7名のうち 7名…○</p>	<p>児童が道をすれ違うとき、大きな声で挨拶してくれるのが大変うれしい。</p>
-----------------	---------------	--------------------------	---	-----	---	---	--

※デジタル教科書補足：「英語」は5年生以上、「算数・数学」は南義務教育学校のみ

妥当性

- ・自己評価は妥当である……○
- ・自己評価は妥当とはいえない……△